



〈シンボルマーク〉



〈校章〉

ぜひアクセスを!!

宮城県迫桜高等学校同窓会

迫桜同窓会報

編集・発行 迫桜高等学校同窓会広報部 発行日 平成27年7月8日
〒989-5502 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 TEL0228-35-1818
迫桜高校ホームページアドレス <http://www.hakuou.myswan.ne.jp/>

▼開校記念講演 タカノハシアキラ氏



仙台支部総会



東京支部総会



総会



さて、この度津花優校長先生がご勇退されました。校長先生は栗農勤務時に教務部長として、迫桜高等学校開校の準備に中心的に携わり、開校後二年間お勤めをいただきました。同窓会の会則をはじめ、組織確立のため学校側の立場からご尽力をいただきました。平成二十四年四月、今度は学校長として

り同窓会の事業、運営にあたりご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。



同窓会長 菅原 孝
(若高 昭和三十四年卒 旧姓門馬)

「同窓会創立十五周年の節目の総会にソプラノ歌手 姉齒けい子さんを迎えて」

て着任され、三年間勤務されました。生徒の「進路希望の達成」を最大目標として、「学力の保障」、「集団の中の自己実現」を目指した教育活動の推進、地域に開かれた学校づくりに邁進していただきました。特に定員確保、五学級維持のため、近隣の中学校訪問をはじめ、あらゆる機会をとらえて迫桜の良さを訴えていただきました。これらのご功績に会員の皆様とともに感謝と御礼を申し上げます。これからは同窓会顧問としてご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。時の流れは速いもので、迫桜同窓会創立十五周年を迎えました。真の迫桜同窓生数も約三千名となり、各方面において活躍されていますこと喜ばしい限りです。十五周年の節目の総会に仙台オペラ協会所属ソプラノ歌手姉齒けい子さん(若高三十四年卒)をお招きすることになりました。姉齒さんは東北大学教育学部卒業後イタリアでオペラ歌手として研鑽を積み、その後仙台を中心にオペラ公演、韓国、ポルト

歌いました。どんな人にも「ふるさと」があります。生まれたところ、育ったところ、自分の転機となったところ、住み生活し思い出多いところ、感化を受けたところなど、人によってさまざまではありますが、私は、学校も「ふるさと」の一つであると思っています。多くの人は、少なからず思い出を抱いて卒業していったものと思われまふ。同級生を含めた親しかった友と出会ったとき、いつでも学校時代に戻れる、不思議な力を持った「ふるさと」が学校ではないでしょうか。



校長 三浦 孝 洋

私たちが小中学校の時代は、「ウサギ追いし彼の山 小鮒釣りし彼の川」の唱歌を習い

「ふねやう」

ガルでの海外公演、個人リサイタル、高校、大学での音楽指導等幅広く活躍され、現在に至っています。総会当日、素晴らしい歌唱をご披露してくださいと思います。必ずや楽しい、素晴らしい総会になります。多くの会員の皆様の総会への参加を期待しています。



平成27年2月28日、第14回卒業生の同窓会入会式が、本校アリーナにおいて行われました。菅原孝会長より175名の入会が許可された後、菅原会長より激励の言葉がありました。続いて、3力年間の高校生活において特に模範的で顕著な活動をした3年3組千葉奈未さんに対して、迫桜賞(賞状と盾)が授与されました。更に、全卒業生に対して卒業記念品として卒業証書ホルダーが贈呈され、最後に3年5組熊谷駿希くんが新入会員を代表して誓いの言葉を述べました。

同窓会活動への協賛金のお願ひ

ゆうちょ銀行口座記号番号
02260-1-113366
口座名称(漢字)
宮城県迫桜高等学校同窓会
口座名称(カナ)
ミヤギケンハクオウコウトウ
ガッコウドウソウカイ
※一口1,000円です。
何口でも結構です。
※ご芳名と卒業年度をご記入ください。

同窓生の皆様の今後ますますのご繁栄と御健勝を祈念し、併せて母校迫桜高等学校への変わらぬご支援とご鞭撻をお願いいたします

今、栗原市内では、少子化による小中学校の統廃合が進められており、この流れは市内高等学校へも否応なく繋がってくるでしょう。迫桜高等学校がその流れに飲み込まれることなく、活力を保ちながら更に発展していくよう、これまで以上に「地域に愛される学校づくり」「魅力ある学校づくり」に邁進して参ります。

同窓生の皆様が過ごされた時代と社会情勢はそれぞれ異なりますが、母校愛の強さ、高さには敬意の念と感動を禁じ得ません。

宮城県迫桜高等学校は、栗原農業高等学校と若柳高等学校とが合併、統合して迫桜高等学校となり、今年で十五年目を迎えます。栗原農業高等学校卒業生一万三千二百七十五名、若柳高等学校卒業生一万三千八百六十九名、迫桜高等

平成27年度

同窓会総会

期日 8月1日(土) 16:30~
受付16:00~
場所 若柳ドリーム・パル

●今年のアトラクションは、
特別ゲスト ソプラノ歌手 姉齒けい子さん 出演 お楽しみに!!
懇親会費 ¥3,000 ※会員券は支部長からお求め願ひます。
(不足の場合は当日券でお願いいたします。)



迫桜祭



支部総体



田植え



桜とすずめ



入学式

会員近況報告

支部だより

若柳



若柳支部
小野寺 伸男
栗農 昭和44年卒
(若柳新田在住)

思い出の先生方に感謝

栗農を卒業して四十六年の月日が流れました。まずは当時の思い出に残る先生方の記憶を辿ることとします。お名前に先生の敬称を附していないのは、当然に尊敬の気持ちからです。(記憶違いもありま

すが)「コッペ」の厳しい指導のもと、唐鋤を持って猪岡農場の開墾、牧草の播種です。今となつては良い思い出です。「果樹の目黒」の時は、金成の演習林を伐採し、それを新山農場の暗渠に敷きました。今、農場はありませんが、卒業後暫くの間、俺達が暗渠したのでいい実がなっていると、嬉しく思いました。

「作物の笠原」、何馬力だったか、フォードのどっかっく青いトラクターに乗った姿が颯爽としておりました。もう一人「作物の三吾先生」五石取り稲づくり、分けつ促進の為に「株かき」などの授業が妙に記憶として残っております。三吾先生は迫桜高校初代の同窓会長ですが、先日鬼籍に入られました。ご冥福をお祈りいたします。三年時担任は「土木の二階堂」。学校敷地の測量はこれも良い思い出の一つです。三、四年程前の同級会に出席頂いた時、健康年齢は六十歳と言っていました。本場に若いと感じました。農業経営の菅昭は何を言っているのか解からないことがありました。その他に「野菜の」と「花弁のげた」、発音が時々変と感じた「とこの庄司」。それから「生物の大沼」は、誰かが間違ったことを言う、毎回の様に、驚き桃の木、山椒の木というやつだね、と口をとんがらがして言うのです。この言い方が面白いと思つたものです。厳しかった「政経の俊英」、「倫社の神田」には生徒会の顧問としてお世話になりました。この先生方の殆どが校長となられました。当時は何とも思わなかったのですが、今にして思えば、我々は超偉大な先生方に教えられていたのです。さて、私は二年前に長年の兼業から細々とした米作りの

母校に誇りを持って

阿部 五

(栗農 昭和二十二年三月卒
多賀城市在住)



私は平成二十五年春の叙勲において「旭日小綬章」を受賞いたしました。栗農を卒業し小学校の教員(代用教員)を振り出しに陸上自衛隊員、代議士秘書、市議会議員等の職を経て、平成二十三年九月、八十一歳に至

専門となりました。営農組合を立ち上げて九年。地域は自己完結型の経営ですが、皆、五年後、十年後は今よりも確実に年を取るということを認識しております。今後どのような経営形態としていくのか、皆で知恵を出し合い、納得の行く結論を出したいと思っております。

東京



東京副支部長
菅原 久雄
若高 昭和31年卒
(東京都在住)

若柳高校在京同窓会の歩み

初めての在京同窓会が昭和二十八年若高四回卒の小野寺裕一氏と先輩たちが中心になり始めた。初代会長に安達たみ子(高女一回卒・昭和八年)さんを担ぎ出し結成。二十八年から三十三年まで六年間会長を務められました。第二代会長太田きぬ子(高女三回卒、昭和三十三年から四十年まで八年間務められました。第三代会長鹿野芳子(高女八回卒、昭和十五年、渡辺達夫(高

四回卒)幹事達と昭和四十年から六十三年まで二十三年間努力されて来ましたが、平成元年ごろ病気の為当時補佐をしていた猪股誠司(高五回卒)氏が第四代会長に、副会長五名、監事・会計各一名、幹事十五名が決まりました。初の男性会長となった同窓会が平成二年十二月八日(土)在京同窓会及母校若高創立六十周年記念事業の報告会も兼ねて恩師、校長、本部同窓会会長、同窓会副会長、総勢八十六名の出席のもと盛大に無事終了することが出来ました。

平成五年十月二十三日(土)在京同窓会に来賓鎌田聡明校長、村松正志先生、工藤忠隆先生、本部同窓会会長三浦将照(高十一回卒)、副会長菅原昭代(高二回卒)、副会長只見勇喜(高七回卒)を迎えて三時間余りのパーティが盛大、かつ和やかに終了しました。会場は港区虎ノ門二一九一・九・発明会館7Fでした。平成八年十月二十六日(土)在京同窓会を母校より山田恒夫校長、三浦将照会長、只見勇喜副会長、恩師役員十数名の出席と八十五名の同窓生一同が会し、三年ぶりの旧交をあたため時間も忘れてしまうほどのパーティでした。次回

の楽しみを約束して無事終了しました。会場は港区芝講演三・五・八・機械会館六Fレストラン「パークヒル」。

平成十二年九月二十三日(土)若柳高等学校在京同窓会を開催しました。恩師安斎よね子先生、三浦三吾先生、小野寺考一先生、佐々木徳夫先生、今井玉乃先生、母校より鈴木晃一校長、高橋武比古同窓会事務局、本部同窓会会長三浦将照、副会長只見勇喜、若柳在住同窓生佐藤弘・大関京子・菅原孝子・菊地健夫・工藤徳彦・久光寧・堀江満寿・菅原静雄、仙台在住同窓生佐藤正孝、大阪在住同窓生佐藤宣重以上十九名、在京同窓生百八十三名総勢二〇〇余名が出席し、いよいよ総会がスタートしました。

総会司会は山岸祥子(高七回卒)、開会の辞副会長菅原久雄(高八回卒)、挨拶は会長猪股誠司、鈴木晃一校長、恩師安斎よね子先生他四名、続いて本部同窓会三浦将照会長挨拶。来賓紹介は猪股会長、いよいよパーティの始まりです。乾杯を最年長太田きぬ子(高女三回卒)氏、最年少白鳥淳子(高四十四回卒)氏の発声で始まり、パーティが進むにつれ、本日の特別出演ビリーバンバン(若柳出身の菅

るまでの約六十三年間奉職、その間における自衛隊在職三十年、市議会議員二十年五ヶ月公職にあたったことにより防衛及び地方自治功労者としての受賞でありました。

栗駒山山麓(旧尾松村)で生まれ育った田舎者が、十八歳で世に出て八十一歳までの約六十三年間は、まさに山あり谷あり、悪戦苦闘の人生でありましたが、「負けるなよ、頑張れ」と常に励まし、癒し、そして支えてくれたものは、栗農の昔の校歌にあった

た「天そそり立つ栗駒の雪解の水のあつまりて沃野をひたす迫川」あの古里の山(栗駒山)であり、川(迫川)であり、水車がまわる緑豊かな田園風景であり、そして恵まれた自然環境の中にあつた栗農で三年間学び培われた百姓魂(栗農魂)でありました。私は常に栗農卒業生であることを誇りに思っております。

私の栗農時代は、昭和十九年四月から昭和二十二年三月の三年間で戦中戦後のまさに激動の時代でありました。戦

前は農繁期には農家への勤務奉仕、毎日のように家から鋤や鍬、鉋等を持って山へ直行し松根堀りという日課でした。従つて机の上での勉強をやったという記憶はあまりありませんでした。昭和二十年八月十五日金成?の山中で松根堀りの作業中「重大発表があるので直ちに帰校」ということになり暑い中を開墾の用具を担いで帰校し、校庭で終戦の玉音放送を聞いたのですが、あの時のことが今でもはっきりと記憶の中に残っております。

原孝兄弟)。唄とトークを交えて進められ、ヒット曲の「白いブランコ」が熱唱され時間も忘れるほどでした。そして若高同窓会最後の「若柳高女校歌」と「若高校歌」を全員で大合唱し青春を思い出しながら、大盛会のうちに総会を終了する事が出来ました。御出席の恩師、若高女、若高の同窓生の方々に協力を頂き、心よりお礼と皆々様の健康をお祈りして解散しました。

栗農同窓会東京支部の総会に御招待されたのは、平成十二年十一月五日亀山晶子(高十八回卒)、日野敬子(高十八回卒)、佐々木浩一(高二十三回卒)。続いて平成十三年十二月十六日亀山晶子、菅原久雄。平成十四年十一月十五日皆川弘美、菅原久雄。平成十五年十二月十六日亀山晶子、皆川弘美(高二十二回卒)、菅原久雄が若高同窓生として出席し、迫桜高校在京同窓会設立に向けて話し合いを続けてまいりました。設立総会は平成十六年十二月五日と決定致しました。栗農同窓会東京支部長遠藤幸治、副支部長鹿野敏男、副支部長菅原文子、幹事長三浦英二、事務局石川嘉治氏の方々に御指導いただきました事に心よりお礼申し上げます。



灯り展



修学旅行



食品加工実習



職場体験学習



迫桜祭

「生意気だ頭下げろ」、上級生に説教され昼の休憩時間は休む暇がなかったこと、農業実習でのかたわら、若高女子学生とギョウギョウ語での栗鉄（のちの栗電）での通学、食料難時代の下宿（冬）生活、桜花爛漫の迫川の堤防を闊歩したこと。他校の学生と喧嘩（当時は遊びの程度）してあるいたこと等々。青春真盛りの栗農時代が今でも懐かしく思い出されます。

時を経て、同級生の中には、地方で首長や助役、議会の議長、小中学校の校長や、仙台に出て会社を興し社長になったものも何人かおりました。

栗農「四七会」と称して全体の同級会をやったら、特に仙台においては度々集まっては栗農時代の事や人生を語り合っておりましたが、寄る年並みには勝てず、一人二人と欠けて逝き寂しくなるばかりとなりました。この年になっても未だ母校の名前が新聞等に出たりしますと、当時の事を思い出し懐かしさで一杯になります。と同時に学業でもスポーツでもボランティア活動でもよく、とにかく活躍の状況をPRし、迫桜高校の名を世間に出るようにならなければならないと思います。

迫桜高校には記念館があるとのことですが、元気なうちに一度訪ねてみたいものと思っております。今は田舎も都会も境目がなくなつてそう感じなくなつていっていると思いますが、田舎者でよし、百姓でよし、私は全国何処へ行つてもこれを自認し、この劣等感を「負けじ魂」というエネルギーに変えて人生を歩んで参りました。人間到るところ青山あり、大志を持つて広い世界に出て大いに羽ばたいて欲しいと思いますね。

迫桜高校在校生の皆さん、母校に誇りを持つてのご活躍と母校の更なる発展を念じながら拙文を閉じます。

迫桜からの羽ばたきと 出会いに感謝を

高橋 郁恵

（迫桜 平成二十年卒
栗原市若柳在住）



日差しが輝く懐かしい教室から

と、三年間の高校生活と仲間との語らいが鮮明に蘇つてきます。思えば、私が迫桜高校を卒業してから今年で七年になります。

私は現在、青春を謳歌した迫桜高校にて福祉科の講師として勤務しています。あの時お世話になった先生方や新しく出会う先生方、そして生徒たちに支えていただき、講師生活の一年目をスタートしたところです。

中学生の頃、祖父の疾患がきっかけで医療・福祉分野に興味を持ち、迫桜高校では進学を目指して日々課外や模試に取り組んでいました。高校三年生の秋、第一志望の大学への推進入試がありました。先生方には放課後遅くまで面接練習や小論文の指導をしていただいたことを覚えています。残念ながら、第一志望には届きませんでした。が、「医療・福祉を深く学びたい」という思いは変わらなず、一般入試に切り替えてから、より一層学習に力を入れるようになりました。悔しさをばねに、やつのこと合格通知を手にした時の気持ちは、今でも忘れられません。そして、最後まで献身的に支え、励まして下さった先生方には感謝してもしきれません。

介護福祉士国家資格と教員免許を取得し、大学生活を終えた私は、仙台にありまます老人保健施設で、介護福祉士として勤務していました。福祉現場での、認知症の利用者様

やそのご家族様との出会いがあり、「おもてなしの介護のあり方」や「人間の人生の尊さ」「自分らしく生きることの大切さ」を、多くの事例をもつて学ぶことが出来ました。そして今、その学びを活かし迫桜高校で、介護福祉士の国家試験を目指す生徒たちに授業を展開させていただいてます。かつて、生徒としてお世話になった自分が、今度は先生としてお役に立てることに、本当に感謝申し上げる次第です。

ささやかではあります。後輩の皆さんにこの言葉を贈りたいと思います。

「蒔かれた種は、すぐに花を咲かせるわけではありません。土の中で根を張り、茎を伸ばし、葉を茂らせ、つぼみをつくり、時期がくれば、花を咲かせます。だから、努力したのに何の成果もないように思える時も、辛い時も、苦しい時も、悔しい時も、誰にも見えないところで根を張り、君はぐんぐん成長しているのです。いつか君がたくさんの花を咲かせ、たくさんの実を結ぶために。」私が恩師の先生にいただいた言葉です。

家族や先生方、友人、地域の方々、あなたが辛い時には、たくさんの人が手を差し伸べてくれるはずですよ。どうか、あきらめず夢に向かって羽ばたいてみて下さい。そして、いつか羽ばたいたことができたならば、それを支えてくれた人がいたことに感謝しましょう。それがまた誰かの支えになるはずですよ。

最後になりましたが、卒業生としてこれからも生徒の皆さんのご活躍と迫桜高校の益々の発展をご祈念いたします。そして、講師として日々の授業への情熱と生徒への献身の姿勢に努めていきたいと思

感謝の気持ちを大切に

黄海 梓

（迫桜 平成二十六年卒
栗原市若柳在住）



私が迫桜高校を卒業してから数か月が経ち

ます。ついこの間まで高校生だった自分が嘘かと思うくらい、時間が過ぎていくのを早く感じます。

私は現在、栗っこ農業協同組合に勤めており、金融部に配属になりました。毎日わからないことだらけですが、先輩や上司にご指導して頂きながら仕事に就いております。

私が迫桜高校に入学した当初は、進学を視野に入れていました。しかし、昔から農業に興味を持っており、途中から思い切って進路を変え、進路を変えたことによつ

様々な分岐点を経て。

タカノハシアキラ

（若高 平成十年卒
東京都在住）



皆様はじめまして。若柳高等学校卒業生のタカノハシアキラ（本名・鷹

皆明）と申します。私は今、東京を中心に役者やミュージシャンとして活動しております。

今回、このような貴重な機会をいただき、大変光栄に思っておりますと共に、少々恐縮しております。

なぜなら、私の高校生活は決して自慢できるようなものではなかったからです。高校時代、真面目に取り組んだのは、バンドとテニスと文化祭の模擬店だけ。出席日も数もギリギリ、成績もギリギリ。先生方には沢山迷惑を

て学習の仕方が進学コースとは違い、また、三年次の夏休みには面接練習、企業訪問などに取り組みました。進路達成のため毎日忙しく、不安になりながら過ごしていたことを覚えております。しかし、先生方の温かいご指導により、なんとか内定を勝ち取ることでできました。また、クラスや部活で出会った仲間たちの助けがあったからこそ、今の自分があることを強く感じています。感謝の一言では表すことができないくらいです。

さて、高校生活三年間は将来を考え、学んでいく時期だと思えます。何となく高校生活を過ごすのではなく、毎日楽しく充実した生活を送り「最高の高校生活だった」と感じられる三年間を過ごしてください。

ささやかではあります。迫桜生にエールを送りたいと思います。

かけ、教員をしていた両親にも恥ずかしい思いをさせてしまったことを思い出します。

その後、高校を卒業してすぐにドラマを目指して上京しましたが、十八、二十代前半は遊んでいるうちに過ぎてしまいました。

このままではいけないと思っていたとき、あるご縁から演劇の世界に足を踏み入れ、新しい自分を見つけることができました。

それから約十年。お陰様でドラマーとしての活動の他、役者として映画やドラマ、CMやイベント、舞台出演など貴重な経験を沢山させていただきました。また、帰省した際には沢山の方に励ましの言葉をかけて頂き、毎回のよう同級生が集まって飲み会を開いてくれます。いつも感謝の気持ちでいっぱい

です。先日、海外にてアメリカの



巨匠がメガホンをとった大作映画の撮影に参加させていただき、その時も皆様の応援が大きな心の支えとなりました。

ここ数年は定期的に帰省し小さな頃から大好きだった栗原神楽の一員として伝統芸能・南部神楽の活動もしております。

そして、自分の進む道に不安を感じた時は高校卒業の時に父親から言われた『進む道に迷ったとき、最後の決断は必ず自分でするように』の言葉を今でも大切にしています。これからも地元の皆様に喜んで頂けるように精進したいと思っております。今後とも応援よろしくお願いたします。

一・卒業生の進路決定先

公務員……………5名
民間就職……………79名
昨年度の卒業生の進路は右の
ような結果になりました。
民間就職が前年度から若干増
えましたが、公務員は半減しま
した。年次のほぼ半数が就職し
ている状況です。
就職内定状況においては、前

年以上の高卒求人票を早くからいただき、生徒たちも積極的に就職活動に臨み最後まで諦めずに活動した結果、卒業までにはとどの生徒が内定をいただきました。公務員試験においても、校内や栗原市内4校で行っている講習会、模擬試験など積極的な受験勉強がみのり、のべ合格者は10名でした。

進学面においては、AO入試や推薦入試にむけて早期から一所懸命に小論文や面接練習に励む生徒が多くみられました。中でも看護の進学者は一般入試に向けて最後まで諦めずに講習などに取り組み例年より多くの合格者ができました。

以上のような取り組みで卒業

までにほぼ全員の進路が達成されました。

本校では年に五回の（三年次生は三回）進路希望調査を行っております。ここ数年の傾向としては大学短大への進学希望者がしだいに減り、専門各種学校への進学希望者の増加する傾向がみられます。しかし、年次が進むにつれ、公務員や看護学校など比較的安定した職種し進路希望を變更する動きもみられます。

進路指導部としては、こうした生徒の変化する進路希望や受験に対応しつつも、安易な進路選択にならぬよう指導していきたいと考えております。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

（進路指導部 村上）

平成27年度
栗原登米支部総合体育大会

卓球部					
女子学校対抗第一位					
女子ダブルス					
第一位 加藤 遥菜					
第三位 佐々木 栞					
女子シングルス					
第一位 鈴木 優香					
バドミントン部					
女子団体 第二位					
女子シングルス 第二位					
剣道部					
第一位 千葉恵利香					
男子団体 第三位					
男子個人					
第三位 千葉凜太郎					
弓道部					
女子団体 第二位					
女子個人					
第一位 星 晴日					
柔道部					
男子団体 第一位					
男子個人					
軽量級					
第一位 小野寺研人					
第二位 千葉智弘					
第三位 阿部直希					
中量級					
第一位 徳能 涼					
軽重量級					
第一位 佐藤 宥斗					
第三位 伊邊 諄					

ホッケー部		女子 第二位		サッカー部		第二位		陸上部		男子		200M		第三位		千葉 創太		400M		第二位		千葉 創太		110MH		第二位		岩嶋 一馬		走幅跳		第一位		島貫 郁己		棒高跳		第一位		佐々木巧弥		三段跳		第一位		石川 輝		第二位		島貫 郁己		円盤投		第一位		加藤 翠		やり投		第三位		高橋 諒		4×100M R		第三位		石川 輝・佐々木巧弥		千葉 創太・菅原啓太		女子		1500M		第二位		鈴木美歩那		3000M		第一位		鈴木美歩那		砲丸投		第一位		石川 葉奈		円盤投		第一位		石川 葉奈		第一位		石川 葉奈	
-------	--	--------	--	-------	--	-----	--	-----	--	----	--	------	--	-----	--	-------	--	------	--	-----	--	-------	--	-------	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	------	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	------	--	-----	--	-----	--	------	--	----------	--	-----	--	------------	--	------------	--	----	--	-------	--	-----	--	-------	--	-------	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	-------	--	-----	--	-----	--	-------	--	-----	--	-------	--

平成27年度 宮城県総合体育大会		ハンマー投	
卓球部		第一位	石川 葉奈
		第二位	高橋 亜美
		4×100 M R	
陸上競技部		第三位	
		菅原美帆・佐々木くるみ	
		高橋亜美・鈴木咲菜	
男子バレーボール部		第四位	
		男子	
		女子	
バスケットボール部		第四位	
		男子	
		女子	
ソフトテニス部		第三位	
		男子	
		女子	
男子個人		男子	
		佐竹直矢・佐藤健太ペア	
		予選リーグ1位	

水泳部	男子一〇〇M バタフライ
第7位	千葉 麗
(東北大会出場)	
平成26年度	栗原登米支部総合文化祭
写真部	
金賞	佐藤 利帆
銀賞	高橋 玲華
銅賞	小野寺 弥生
銅賞	中山 千里
銅賞	海野 幸奈
書道部	
最優秀賞	沼倉 愛美
優秀賞	富栄 彩奈
優良賞	菊地 彩望
美術部	
優秀賞・会員推薦賞	千葉 彩加
星	琴絵
全国産業教育フェア宮城大会	
全国高校生介護技術コンテスト	
奨励賞	佐藤 ひかる
	庄司 歩美
	佐々木 ちな美
全日本アンサンブルコンテスト東北大会	
打楽器三重奏	
三浦 敬登	
岩渕 晴樹	
佐々木 彩春	

◎千葉奈未

平成二十六年 第十四回生

◎印は代表委員長 ○印は代表副委員長

一組代表	金野讓治(登米市迫町)
二組代表	吉田拓実(登米市石越町)
○黄井林健太(登米市南方町)	
三組代表	菊地彩望(登米市中田町)
四組代表	佐藤美咲(栗原市若柳)
佐藤佑希(栗原市一迫)	
三浦美咲(栗原市若柳)	
五組代表	◎熊谷駿希(栗原市若柳)
鈴木美紅(栗原市若柳)	

(平成27年6月2日現在・敬称略)

報 告

初代同窓会長

三浦三吾氏

平成二十七年三月五日永眠致しまして、心からご冥福をお祈りいたします。

追川会	東京	盛岡	仙台	涌津	老松	日形	金沢	永井	油島	花泉	佐沼	中田	北方	南方	新田	石越	瀬峰	富野	宮野	玉沢	金館	長田	一崎	花迫	鷺山	岩ヶ崎	文松	姫松	鳥矢崎	栗駒	志波姫	金成	若柳	支那	
				(一関市)	(一関市)	(一関市)	(一関市)	(一関市)	(一関市)	(一関市)	(登米市)	(登米市)	(登米市)	(登米市)	(登米市)	(登米市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	(栗原市)	支那長氏名
金野勉	遠藤幸治	千葉行光	(選考中)	目黒文男	菅原昊	小野寺亨	高橋智明	佐藤俊郎	鈴木政喜	鈴木政喜	(杉山章子)	菅原一	名生東	佐々木振作	高木千治	八巻千治	(選考中)	菅原文夫	三塚精長	大場馨一	高橋謙一	佐藤哲郎	狩野仁哉	遊佐博	菅原英俊	高橋英夫	菅原隆雄	鈴木善久	木村格	佐竹栄一	菅原清幸	高橋利昭	阿部眞三	上山喜志雄	支那長氏名
栗沼34	栗沼24	栗沼26		栗沼29	栗沼39	栗沼34	栗沼23	栗沼21	栗沼40	栗沼45	栗沼24	栗沼44	栗沼34	栗沼28	栗沼32	栗沼40	栗沼21	栗沼31	栗沼31	栗沼33	栗沼37	栗沼39	栗沼39	栗沼28	栗沼37	栗沼27	栗沼34	栗沼47	栗沼30	栗沼30	栗沼31	栗沼35	栗沼37	栗沼43	卒業年

平成二十六年分
(改称各)

昭和二十七年度卒
小宮嘉代子（広島県福山市）
平成十五年度卒
加美山若奈（登米市迫町）
及川 真希（栗原市志波姫）
平成十六年度卒
鈴木慎太郎（栗原市栗駒）
佐々木遥香（栗原市鷺沢）
工藤 則弘（登米市石越町）
平成十八年度卒
菅原 美希（一関市花泉町）
平成十九年度卒
伊藤 美菜（登米市中田町）
平成二十一年度卒
伊藤 真一（登米市西成町）

迫桜高校同窓会報は同窓会総会のご案内を兼ね発行しています。同期会や同級会の情報や報告はもちろんのこと、高校時代の思い出、迫桜高校に対する思い、迫桜生に対する激励、会員本人の近況、会員の活躍、会員の様々な取り組みなど、なんでも結構です。ぜひ同窓会事務局までお寄せいただきたいと思います。写真などを添えていただきますと、なお幸いです。

また、締め切りは毎年4月下旬頃ですが、字数や応募方法など詳しいことに関しては事務局にお問い合わせください。

迫桜高校総務部同窓会事務局
(☎0228-35-1818)

同窓会報第十五号が出来上がりました。発行に際しまして、原稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申上げます。今号でも、支部さん方を通じて各支部で配布をしていたたく形に加え、追桜高校の平成十五年から二十二年度の卒業生へ会報を試みを継続しております。会報を一人でも多くの同窓生に読んでいただく、追桜高等学校への窓口や、皆様のご交流の一助となれば幸いです。今後とも読みやすい会報づくりに努めてまいりますので、会員皆様の尚一層のご協力とご支援をお願い致します。

(事務局長) 佐藤 広